

避難道の整備

維持・管理 主体はどこか

日常管理は地区に 大規模修繕は町で



はまむら みか
濱村 美香 議員

問

避難道の計画が開始されて10年近くになる。地区の人口減少、高齢化に伴い、管理の難しさが出て来ている。適切に整備、管理され、逃げられる状況を確保していると判断しているか。

その維持・管理の主体はどこか。

また、地区担当の職員は、地区の避難道の状況確認や地域を支える支援ができないか。

答

徳廣 情報防災課長

区長から要望が上がった来た場合を除き、すべての路線を情報防災課で現状確認できているわけではない。

清掃や草刈りなど日常的な管理は、地区に管理をお願いしている。地区で対応できない大規模な修繕等は町が行うこととしている。

地区防災計画において、地区で避難道に関しての取り組みがあれば、地区担当制も使いながら課題解決に向けて進めていく。

問

避難行動要支援者の避難訓練をどのように計画しているか。

要支援者避難

訓練の計画は

風水害想定し 訓練実施する

答

佐田 健康福祉課長

今年度は、土砂災害や台風の豪雨、風水害に対する避難計画策定の取り組みを進めている。



9月の豪雨で一部崩落した避難道(出口地区)

町の基準に該当する避難行動要支援者は218名で、そのうち土砂災害の警戒区域内に在住の方が78名。その中でも支援が得られにくい状況にあり、避難が困難とされる12名について個別計画の策定を急いでいる。

福祉避難所へのお試し避難も含めて、一人ひとりの状態に合わせながら訓練を実施していき、犠牲者ゼロを目指し、必要な取り組みをしていく。

松原大橋

塔の現状どう考える

令和5年度にかけて修繕計画

問

国道56号線から入野松原に向かう海岸線に掛かる松原大橋の塔が茶色に変色している。町はこの現状をどのように考えるか。

促進同盟会からも県に修繕の要望をしていた。

今年度から令和5年度にかけて塗装工事を行う計画。

現在は、塗装の成分検査が終わり、1月以降の着工に向けて作業を進めている。

答

門田 産業推進室長

松原大橋については、土佐西南大規模公園建設



修繕計画が進む松原大橋を海側から望む